

# 地震対策シリーズその3

## 警戒宣言がでたら

### (1) 家庭での心得

○正しい情報をつかもう  
テレビやラジオのスイッチは常に入れておこう、また、市役所や消防署、警察などからの情報には絶えず注意しよう。

○すぐ家庭の防災会議  
警戒宣言は何時に出されるかわからない、そのとき家にいる人で、仕事の分担と段取りをきめ、すぐに取りかかろう。

○家の中ではつぶされないようにしよう

とりあえず、身をおく場所をたしかめよう。重い家具を壁に止め高い所から重いものやガラス類をおろそう。とくに

(ア) ピアノ等、重いもので固定してないものは丈夫なロープで上下二か所を柱にしばりつける。  
(イ) ガラス戸のついた食器棚やサイドボードの中のものには外に出す。

○火はできるだけだけ使わなようにしよう

地震でこわいのは火災です。やむをえず火を使うときは、そばに人がいるようにするか、地震のとき自動的に消えるものにかぎる。

### 粉末消火器、強化液消火器の使い方



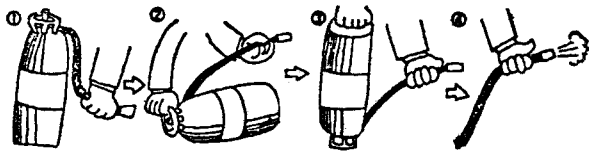
安全ピンを引きぬく      ホースを火元に向けて      レバーを操って噴射

○危険物などの安全に注意しよう

灯油、ベンジン、食用油など燃えやすいものは安全な容器に移し、火元から離そう。プロパンガスのボンベは元栓をしめ、倒れないよう鎖などで固定してあるか、たしかめよう。

○水や消火器を用意しよう  
万一、火がでてもすぐ消せるよう、消火器やバケツを用意しておこう。

### 泡消火器の使い方（転倒式）



ホースをはずしノズルをおさえる      消火器を転倒する      引きおこしてホースを火元に向けて      親指をはなして噴射

こう。特に消火器は使い方をたしかめておこう、風呂には水をいっぱい張って置く。

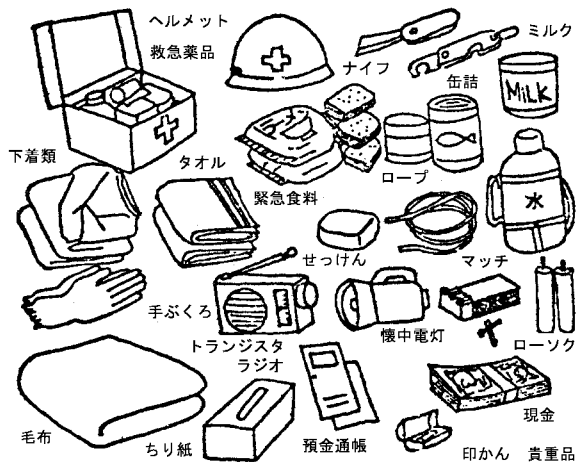
○身軽で安全な服装に着かえよう

作業にも便利で、最悪の場合そのまま逃げられる服装にすぐ着がえよう。ずきんやヘルメットも着けておこう。

○非常持出品をたしかめよう

水、食料、ラジオ、懐中電灯、医療品など、非常持出品がそろっているか、たしかめよう、あわてて買物に走っても手に入るとはかぎりません。ふだんから用意しておくことが大切です。

非常持出袋の例には、つぎのようなものがあります。



○避難場所をたしかめておこう

家が万一つぶれたときの出口を確保しよう。火災が大きくなる危険のある場合は、消防署の指導に従って避難の用意をしておく。特に山崩れ等の危険のある場所では、早目に避難の用意をすることが必要です。

○隣近所の助け合い

いざという場合、みんなが助け合って、初期消火や避難ができるよう、お互いに連絡をとっておこう。自主防災組織があるところでは、いつでも出動できるよう、装備の点検準備をしよう。

○自動車、電話は自粛しよう

警戒宣言が出てからは自動車を使うのはやめよう。みんなが車で逃れようとすれば、交通渋滞をおこし、結局どの車も動けなくなる。救急車や避難者のじやまになるし、火災を広げるおそれがある車の中にいる人自身も危険になる。従って、このようなときは警察官の指示に従いましょう。

また、みんなが一斉に電話をすると、結局機械の故障を生じ、誰からも電話はかからないことになる。あわてて電話をしなくともよいように、ふだんから話しあっておくようにしましょう。